

## 健康人間学

第15号

2003年

## 目次

## 第15回健康科学公開講座から

## 「21世紀を支えあって生きる」

山口研一郎：高次脳機能障害の認知リハビリに携わって —3年6ヵ月の経験と実態調査から見えてきたもの—	1
菅 佐和子：「もうひとつの教室」を求めて	17

齋藤 ゆみ：京都大学医学部保健学科・看護学専攻への教育の提言 —平成14年度京都大学全学教育シンポジウムおよび文部省主催 看護教育ワークショップの参加報告とそれを踏まえた教育への提言—	22
奥津 文子，赤澤 千春：成人看護実習終了時の学生の技術到達度に関する認識	33
高橋 康子，奥津 文子：精神看護学実習における精神障害者小規模 共同作業所の効果と課題	40
赤澤 千春，田畑 良宏，徳川早知子：集中治療室入室患者の術後精神障害の 発生と体温の変化との関係について	45
阪田 麻奈，小澤由美子，二位 希美，西川 由花，堀口真由美，山田希理子， 小堂登志子，中川 拓也，稲本 俊：乳癌術後患者の運動制限・ 生活制限と人や病気に対する対処行動の関係についての研究	55
日隈ふみ子，坪田 明子，藤井真理子：イギリスの助産事情に学ぶ	65
Akemi YAMAZAKI: The Dual Health Systems Perspective: Nursing Knowledge Development to Childbearing Women and their Families	74
健康人間学例会記録 (15) (2002.1—2002.12)	81
投稿規定	82
編集後記	84

Health for all—all for health

健康をすべての人のために，すべての人を健康のために

(WHO, 1988年)

健康人間学に投稿される方は下記の投稿規定に従って下さい。

### 京都大学医療技術短期大学部紀要別冊投稿規定（平成5年6月16日改定）

**投 稿**：投稿論文は、総説、原著、短報などとし、本短期大学部教職員（元教職員を含む）が著者、または共著員であるものに限る。

**論文の受付**：原稿（表紙、本文、図、表など）はコピー2部を添え（計3部）、当該年度の12月20日までに、編集委員会に届ける。編集委員会に届けられた日をもって受付日とする。編集委員会は、割付および全体としての統一などをはかるために、著者に対し表現方法その他の変更、削除などを求めることがある。

**原稿の書き方**：原稿は次の規定に従って書かれたものであること。

1. 表紙（原稿第一枚目）の前半には表題、著者名、所属およびその所在地、ランニング・タイトルをこの順に従って書く。なお外国語原稿の場合は、上記各項の日本語を併記する。

後半には原稿の枚数、図、表の数、別刷希望部数を書く。筆者の所属の表記は、筆頭者は無記号、共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に\*、\*\*……印をつける。

2. 原稿には、英文の表題、著者名、所属、抄録（20行、または200 words程度）およびKey words（8語以内）をつける。著者名の姓は、大文字で表記する。
3. 欧文原稿及び英文抄録は、必ずダブル・スペースでタイプする。また、当該国人が読んで、正確、明快に理解できるものでなければならない。

和文原稿は原則として、常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、B5版の400字詰横書き（論文の内容上とくに必要な場合は縦書き）原稿用紙に清書する。ワープロ使用の場合も、400字詰とする。外国語固有名詞（人名など）は原語を、一般に日本語化された外国語は、片かなを用いる。

度量均等衡は、CGS単位とする。

4. 論文の項目の区分は、原則として下記の例に従う。

大項目……無記号で下線をつけ、前を一行あける。原著論文の緒言（Introduction）、材料（Materials）、方法（Methods）、結果（Results）、考察（Discussion）などが相当する。

小項目……以下の順で使用する。

- 1., 2. ……行の第1字目に記す。  
1), 2) ……行の第2字目に記す。

5. 図（Figure）および表（Table）にはそれぞれ通し番号をつける。図版（Plate）や写真（原則として白黒）は、図として取り扱う。

図はなるべく原寸大とし、明瞭でそのまま印刷できるものとする。図版は（14×20 cm）以内にまとめる。図は台紙（20×26 cm以下）に貼り、さらに薄紙のカバーをつける。カバーには筆頭者名、ランニング・タイトル、図の通し番号を記入する。図・表の説明文は、まとめて原稿の末尾につけ、原稿本文中の欄外余白部に、図、表の挿入位置を朱記し明示する。

6. 謝辞は、本文の末尾に入れる。
7. 文献は、下記の要領に従い、引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。外国語文献は必ずタイプする。

本文中の文献引用個所には著者名や引用文などの右肩に、その文献番号を<sup>1), 1.3.6), 2-5)</sup>のように記す。

雑誌の場合

著者名（6名以下の場合は全著者名、7名以上の場合は最初の3名を記し、“他”または“et al”をつける）、表題、掲載誌名、発行年（西暦）、巻数（必要であれば号数）、頁数（終-始）の順に記す。雑誌略名は、日本医学誌略年表（日本医学図書館協会編）

および Index Medics に従う。

〈例〉

- 1) Sakaguchi K, Jameson EW: Two new fleas from Japan. J Med Zool 1959: 10, 156-162
- 2) 菅沼美奈子, 山内和美, 三井政子: 性周期記録表の試み. 母性衛生 1978: 19, 76-82

単行本の場合

著者名(雑誌の場合と同様), 表題, 編者名, 書名, 版数, 発行地, 発行所, 発行年(西暦), 引用頁(始-終)または(1-終頁)の順に記す。なお著者と編者が同一の場合には, 著者名, 書名の順とする。

〈例〉

- 1) Wintrobe MM: Clinical Hematology: The erythrocyte. 7th ed. Philadelphia: Lea and Febiger, 1974: 80-220
- 2) Schwartz TW, Tager HS: Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In: Bloom SR, Polak JM, eds. Gut Hormones. 2nd ed. Edinburgh, London, Melbourne, New York: Churchill Livingstone, 1981: 202-205
- 3) 富田 仁: 救急時検査の手技と解釈, アミラーゼ. 富田 仁, 熊谷直家, 内田耕太郎, 検査診断マニュアル. 第1版. 東京: メヂカルフレンド社, 1978: 96-99
- 4) 城戸幡太郎: 文化心理学の探求. 東京: 国土社, 1970: 1-390
- 5) Pedretti LW: 身体障害の作業療法(小川恵子, 山口 昇, 青木真由美訳). 東

京: 協同医書出版社, 1985: 103-115

同じ文献を再引用する場合

〈例〉

- 1) Eliot TS: The complete Poems and Plays. London: Faber & Faber, 1969: 25
- 2) Yeats WB: A Vision. London: Macmillan, 1937: 13-17
- 3) Ibid., 18
- 4) Op. cit., The Complete Poems and Plays, 78
- 5) 砂原茂一: リハビリテーション. 東京: 岩波書店, 1980: 2028
- 6) 中野 昇: 腰痛の臨床. 東京: 南江堂, 1976: 56-62
- 7) 同上, 31-35
- 8) 前掲書, リハビリテーション, 45-48

**原稿の枚数:** 原著論文, 総説は原則として図, 表などを含め刷り上り10頁以内, 短報などは同じく4頁以内, 学会・研究会の抄録などは同じく半頁以内とする。なお, 本誌1頁は, 400字詰原稿用紙約4枚分に相当する。図は手札大(9×13 cm)が原稿用紙約2枚分に相当する。

**校正:** 著者による校正は, 再校までとし校正時における内容の変更や追加は認めない。

**印刷費:** 原画の描画を外部に依頼するときや, カラー写真印刷を希望するときなどは, その経費は著者の負担とする。

**別刷:** 別刷は50部を単位とし, 50部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。

## 編集後記

未許諾のため本文はありません

(文責・田原明夫)

---

### 京都大学医療技術短期大学部紀要別冊「健康人間学」第15号

Health Anthropology, Extra Issue of  
Annual Reports of the College of Medical  
Technology, Kyoto University No. 15

平成15年3月31日印刷・発行

発行 京都大学医療短期大学部  
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53  
TEL 075-751-3901

印刷 山代印刷株式会社  
〒602-0062 京都市上京区寺之内通小川西入  
TEL 075-441-8177

---

# HEALTH ANTHROPOLOGY

## EXTRA ISSUE OF ANNUAL REPORTS OF THE COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY, KYOTO UNIVERSITY

No. 15

2003

### CONTENTS

#### Papers

YAMAGUCHI K: Experiences of Cognitive Rehabilitation for the Higher Brain Function Disorder.....	1
SUGA S: Searching for Another School-Class.....	17
SAITO Y: Proposal to the Education of Department of Health Promotion: Nursing, Faculty of Medicine, Kyoto University —Report and Personal Proposals Based on two Meetings, Annual Educational Symposium of Kyoto University 2002 and Educational Workshop of Ministry of Education and Science, 2002—.....	22
OKUTSU A, AKAZAWA C: The Awareness for the Level of Technique at the End of Clinical Training of Adult Nursing.....	33
TAKAHASHI Y, OKUTSU A: Effectiveness of the Psychiatric Nursing Practice in Work Shop for Mentally Handicapped Persons.....	40
AKAZAWA C, TABATA R, TOKUGAWA S: Relation between the Occurrence of the Postoperative Delirium and the Fluctuation of Body Temperature of Patients in Intensive Care Unit.....	45
SAKATA M, KOZAWA Y, NII N, NISHIKAWA Y, HORIGUCHI M, YAMADA K, KODO T, NAKAGAWA T, INAMOTO T: Relationship between Difficulties of Physical Activity and Daily Life and Coping Behavior with Personal Relations and Diseases of the Breast Cancer Patients after Mastectomy.....	55
HINOKUMA F, TUBOTA A, FUJII M: Maternity Care Report from United Kingdom.....	65
YAMAZAKI A: The Dual Health Systems Perspective: Nursing Knowledge Development to Childbearing Women and their Families.....	74
<b>Report of Activities of the Reserch Groupe (Jan. 2002–Dec. 2002)</b> .....	81
<b>Instructions to Author</b> .....	82
<b>Editorial Notes</b> .....	84

<p>Extra Issue of Ann. Rep. Col. Med. Tech., Kyoto Univ.</p>
--